

## キノシタヒロシ

キノシタヒロシ建築設計事務所

【作品名】小さな図書館のある家

設計	キノシタヒロシ建築設計事務所
施工	井筒左官・UKP
竣工日	2019年11月

### ◎建物概要

建設地	鳥取県鳥取市	延床面積	131.16㎡
敷地面積	80.77㎡	構造・規模	RC造(既存)

### ◎設備面の特記

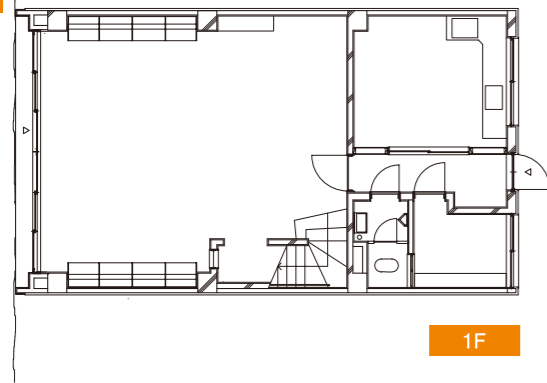
厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	ガス給湯器
冷暖房機器	エアコン



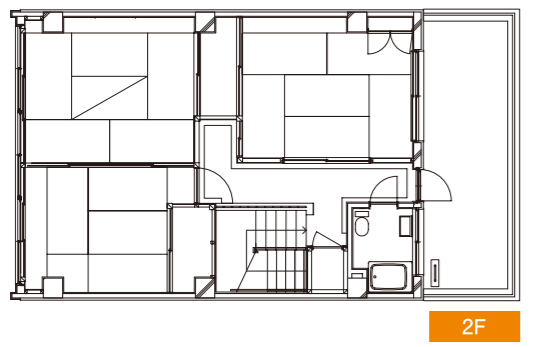
①円環状のベンチは土間や客間として、あるいは気の合う仲間や家族で囲らんするようなパブリックなリビングのように使われる。  
②奥の間にもたくさんの本が収蔵されている。

### リフォーム前

平面図

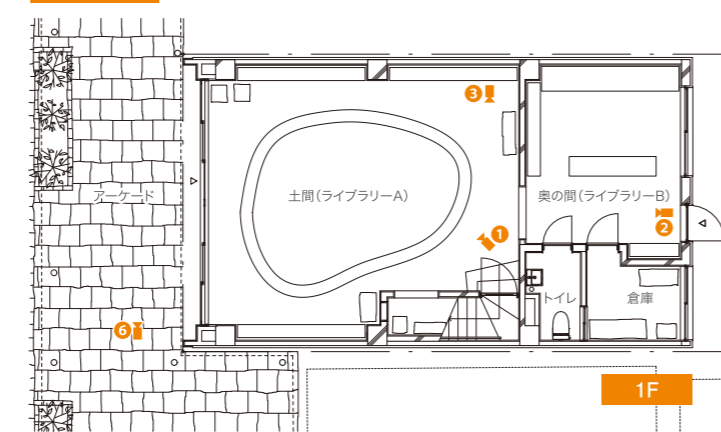


1F



2F

### リフォーム後



1F



2F



③



④

③右側の本棚には絵本を収蔵。既存天井を取り払い、アーケードと天井の高さを揃えることで、軒や縁のような雰囲気が見れる。  
④上階はワンルームとし、両側の大きな開口からは気持ちの良い陽光が入り、簡単に風が抜ける。最小限の改修に留め、自分たちで屋上に花壇を設けるなどして楽しむことを選んだ。



⑤



⑥

⑤高い天井、広い一室空間。東京のマンションでは得られない住空間が好まれた。  
⑥1952年に施行された耐火建築物促進法の最初の適法として、目抜き通りの両側に防火建築帯が建造された。周辺には同じ規格の鉄筋コンクリート造の家屋が建てられ、今回の敷地もそのうちのひとつである。

### 設計コンセプト

たくさんのお本をお持ちで、その収蔵場所も兼ねた住まいを考えていた施主に、単に書庫としてだけでなく、気が向いたら私設の図書館のようにして街に開くことができる住空間としてはどうかと提案し計画が始まった。

入口にあった6枚のガラス戸はそのまま転用することとし、1階はアーケードから続く土間や客間として、あるいは小さな図書館のような開かれた場所にもなる。円環状に設けられたベンチはその様々な場面で使われる。

上階は躯体が持つおほかささを存分に活かして施主の好みでもあるワンルームとした。また、設備を最新の高効率機器に取り替えた以外は、建築全体として大きな費用は掛けず最小限の改修に留めた。

東京と鳥取の2拠点でカフェやギャラリーを運営する施主は、東京のマンションでのふたり暮らしをやめ、鳥取の街で自分たちらしく生活している。この街で得た新しい共同体の形成にこれからの

家族の有り様が示されているように感じる。

この市街地は1952年に起きた鳥取大火により街中が焼けた。復興の際、同年に施行された耐火建築物促進法の最初の適法として、付近にある目抜き通りの両側に防火建築帯が建造された。同時期に周辺には、それとほぼ同じ規格の鉄筋コンクリート造の家屋が建てられ、未だにその多くが現存している。今回の敷地もそのうちのひとつである。

躯体の1階の天井高さはアーケードと同じ3500mm、2階は3400mmと防火建築帯とはほぼ同じであり、またそれは一般的な家屋の躯体と比べて遥かに高い。

この空間スケールはアーケードと同じく、大火以降から経験されてきたこの街特有のスケールであり、地域の共同体の活動を支えて来たであろう。施主の描く新しい共同体の形成の器として、これら进行评估的に設計に取り込んだ。

### 審査委員講評

この地域で起きてきた時間の記憶を継承する器と新たな施主。その両者と対話しながら実空間として仕立て上げた設計者の技量が秀逸でした。個人の趣味が街へ滲み出ているふらりと立ち寄りたくなる新しい住まいのカタチを感じました。中央の円環の柔らかい形態は通りがかる人が気軽に腰掛けることをアフォードしており、既存躯体のラスティックさと合わせて心地よさを作り出しているように感じました。